

【問 4-1】 理学療法士への質問

近い目標と遠い目標の設定方法について

回答：リハビリでは短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月となっています。

短期目標の延長線上に長期目標となるように設定します。

例えば 短期目標：トイレまでの歩行が安定して行える

長期目標：郵便受けまで歩行ができ、新聞を取って来れる。

評価報告書の数字の基準が分かりません

回答：各病院・事業所において評価の方法は様々ですので、明確なお答えは出来ません。

退院時の連携で、ITを利用し連携を図りたいと日頃から思っています。

回答：一緒に頑張りましょう。

【問 4-2】 作業療法士への質問

エリアの医療機関ですので、これからも連携を図らせていただきます。

回答：山梨県作業療法士会ともども宜しくお願い致します。

OTが中心の調理や作業が出来る環境のデイはあるのか？

回答：デイケアにはリハ職がおりますので是非ご相談ください。

【問 4-3】 言語聴覚士への質問

質問：未だ中途度と言われているALSの方への支援について教えていただけたらと思います。

回答：ALS（筋萎縮性側索硬化症）では運動機能だけでなく、コミュニケーション、呼吸、嚥下（飲む・食べる、飲み込む）に障害が生じます。

コミュニケーションの障害では、はっきり話せない、文字を書けないなどで、考えや思いを伝えることが難しくなります。進行すると、表情や身振り手振りなど非言語コミュニケーションも徐々に難しくなります。

コミュニケーション支援として、従来の文字盤を使って文字を綴る方法、『口文字』、コミュニケーションボードなどに加え、現在は、スマートフォン、パソコンやタブレット、また、まばたきや頭の傾きなどの小さな随意運動を入力スイッチとして活用する装置や脳波や脳血流、皮膚表面の電位などを入力スイッチとするなど新しい技術の実用化も期待されています。また、人工呼吸器を装着した際にもスピーチカニューレや電気式人工喉頭を使用し、話すことができる可能性もあります。

いずれにしても、病状が進行することを前提とした練習に前向きに取り組むことは、患者さんにとってもご家族にとっても難しいことです。それでも、コミュニケーションを保つために何より重要なのは、常に早めに対策をスタートすることだと言われています。

また、ALSでは球麻痺型であれば比較的早期に、それ以外の型でも嚥下障害は必ず起こります。呼吸数の増加などにより、患者さんに必要な栄養量は、見た目の運動量よりずっと多くなりますの

で、栄養手段の確保は非常に大切となります。体重が病前に比して10%以上低下する前」が、胃ろうを作るべき時期の目安とされています。(難病と在宅ケア 2016年2月号『ALSの進行 予後に何が影響するのか』より)

胃ろうも人工呼吸器も、患者さんが「どう生きるか」「どう亡くなるか」に関わってくる非常に大事な問題です。患者さんの意思決定を支援するうえで難しいのは、病状が進行した姿をご自身に伝えなければならないことです。だからこそ、患者さんの意思決定を私たちはそばで支援していくことが重要だと考えます。

装置などの入手や人的資源の確保に対する公的な支援制度がありますが、地域によって異なりますので、各市町村の担当者にご相談ください。

質問：予後をどの様に判断するか。

回答：失語症の原因疾患のうち、最も多い脳血管障害では、回復パターンは身体機能と同様に、「急性期に急激に、その後ゆるやかに改善し、いずれ機能的にはプラトー」といった回復パターンを示すが、身体機能と異なり、長期間にわたり回復がみられることが言語機能の特徴とされています。失語症の予後に関連する要因にはさまざまな報告がありますが、大きく次の3つに分類されています。

<①疾患要因>

病巣が狭い範囲に限局していると、回復が期待できるといわれています。特に中心溝の前方や基底核に限局した病巣例では、発症から2年程度までの比較的早期に回復する症例が多いことが知られています。

<②生物学的要因>

発症時の年齢が40歳未満であれば、広範囲にわたる病巣例でも長期間で、中等度ないし軽度まで回復する可能性があることが知られています。

<③社会的要因>

訓練を長期間実施することにより、機能回復が認められる症例が存在します。反対に、訓練を実施しないことにより、回復した機能が低下する症例が存在することが報告されています。

近年は在院日数の短縮化に伴い、失語症の方に長期間にわたってリハビリテーションが実施できるような機会が少なくなっています。言語聴覚士としても、患者さんが長期的にリハビリテーションを継続できるような働きかけを今後も行っていきたいと思います。

[出典・参照]

藤田郁代.標準言語聴覚障害学 失語症学.医学書院,2009

中川良尚.失語症の長期回復.高次脳機能研究 2014;34(3)

中川良尚.言語機能障害(失語症)の予後予測.総合リハビリテーション 2018;46(7)

質問：STが対応してくれる通所リハの環境を整えて欲しい。

回答：山梨県言語聴覚士会ホームページ (<http://st-yamanashi.jp>) に、当会会員の所属施設を領域ごとに掲載していますのでご参照ください。

